

第十 昭和十九年初頭

太平洋方面ヨリスル米ノ対日攻強化ニ併行  
スルノ対支利用企圖ハ漸次濃化ノ傾向ヲ示ス  
ニ至ルベシ、即チ前年末頃以降印支空輸ニ依  
ル対支補給ヲ飛躍的ニ増勢シ先ヅ在支米空軍  
特ニ超重爆B29ヲ増強ニ重莫ヲ指向スル傍ラ  
直接重慶ノ抗戦支援ヲ強化スベシ。之ガ為印  
支空輸ノ増勢、同地トルノ啓開ヲ基調ト  
シ西南支ニ於ケル軍事中樞ノ造成ニ努ムルト  
共ニ持テ東南支ヲ基地トスル帝國本土要域ノ

新世界の空襲線ニ空海ヨリスル南北交通幹線  
ノ分断ヲ企圖シ併セテ重慶ノ抗戦力増強、國  
際的政治地位ノ向上ヲ支援スベシ。  
二、重慶ハ世界戦局就中東亞ニ於ケル聯合側ノ戰  
勢好轉ヲ反映シ愈々對日ハ勝リ遠ラサルヲ確  
信シ維戦意志ヲ頓ニ恢復強化スルト共ニ米英  
ト協力スル印支地止ルトテ啓開線ニ對日反  
攻戦力ノ培養ニ専念シ爾他方面ニ於テハ極力  
原態勢ノ保持ニ努ムベシ。  
三、國共關係ハ依然不即不離ノ状態ヲ維持シ特ニ  
顯著ナル變化ナカルバテモ中共勢力地盤ノ拡

0388

大ハ我が奥地遠攻作戰、發動ニ伴々必至ナル  
ブシ

四、我が方占據地、治安經濟情勢ハ太平洋戰局、  
推移ヲ敏感ニ反映シ愈々悪化ノ傾向ヲ辿ルベ  
シ。

0389